

令和8年度

高浦中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 授業目標の明確化と問題解決過程の重視
- タブレット等のICTを積極的に活用した授業展開
- 「家庭学習の手引き」「自主学習ノート」「タブレットドリル」を活用した家庭学習の充実

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

授業公開や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な内容が定着している生徒が多い。落ち着いて授業に臨み、与えられた課題に対しては意欲的に取り組むことができる。 ●家庭学習の習慣が定着しておらず、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題が残る生徒もいる。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につけている。 ・習得した知識を、既習の知識と関連づけ、他の場面で活用することができる。	・T.T指導を展開し、定着が不十分な生徒に対する個別指導を充実させる。 ・基本的な内容が復習できるプリントやワーク等に取り組みせたり、タブレットドリルを活用したりして、反復学習を行う。 ・活動ごとや単元ごとに、ノート等の内容を確認する。 ・小テストを随時行い、生徒の達成状況をこまめに把握して指導にいかす。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○表現活動を楽しみ、自分なりに工夫する生徒が多い。 ○記述式の問題に対して、何か書こうとする意欲のある生徒が多い。 ●単純な問いに対しては積極的に発言できるが、根拠を明らかにして筋道立てて説明することが苦手である。	・課題解決に至る過程を、記述したり説明したりすることができる。 ・さまざまな事象を関連づけたり、学習した内容を組み合わせることで考えを深めたりすることができる。	・授業の目標を明確にするとともに、思考の流れが分かる板書やワークシートとなるよう工夫する。 ・ベア学習や班活動を取り入れ、自分の考えや意見を筋道立てて説明する場面を多く設定する。 ・タブレットを効果的に活用し、一人一人が意見や考えを表現する機会を作る。 ・文章から重要な部分を見つけ出し、その根拠を書かせることで情報を正確に捉える力を高める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題等の提出率は高い。また、定期テスト前の学習にも、多くの生徒が目標を掲げ、意欲的に取り組んでいる。 ●自らの苦手分野や課題を見出し、自分に必要な学習を考えて取り組むことが苦手な生徒がいる。	・「家庭学習の手引き」を活用し、授業で学んだことを自分のものとするために必要な家庭学習ができる。 ・ある事象に対して疑問を抱き、その疑問に対して、自ら調べることができる。	・学期ごとに家庭学習充実月間を設け、「自主学習コンテスト」を行い、家庭学習の質の充実を図る。 ・授業の中で、自分が選択した難易度の問題に取り組んだり、複数の課題の中から興味のあるものを選択して解決したりするなど、自己決定の場面を多く設定する。 ・主体的に取り組んでいる生徒の姿を認め、学級全体で共有する。			